

米国の未臨界核実験に抗議する決議

米エネルギー省の国家核安全保障局（NNSA）は12月6日、米ネバダ州の核実験場で、核爆発を伴わない未臨界核実験を実施したと発表した。未臨界核実験は昨年2月以来で、オバマ政権下では4回目、通算では27回目となった。

オバマ政権は、「核兵器のない世界」の実現を目指すとしながらも、核兵器が存在する間は、その「安全性と信頼性」を確保するために必要だとして、ブッシュ政権から継続して未臨界核実験を行っている。これは、国際社会平和の願いを無視し、核全廃への取り組みを踏みにじるものであり、強い憤りを禁じ得ない。

よって、東大和市議会は、爆発・非爆発を問わず、米国政府がいつさいの核実験、核開発計画を放棄し、包括的核実験禁止条約の批准を進め、核兵器全面禁止条約の実現のために、ただちに行動を起こすよう強く求めるとともに、世界の恒久平和を願い、非核平和都市宣言をする自治体の市民を代表して、今回の実験に対し強く抗議し、再び実験を行うことのないよう強く求めるものである。

以上、決議する。

（議決日）平成24年12月21日

（送付日）平成24年12月28日

（送付先）米国駐日大使